



2024 年 8 月 26 日 (月)
余市養護学校しりべし学園分校
文責：研究部 鈴木
第 3 号

いよいよ長い長い 2 学期が始まりました。2 学期には研究授業もたくさん行われます。これまでの研修の内容も参考にしながら授業作りについて考えていけたら良いですね。本号では、7・8 月に行われた研修等の様子についてお伝えします。

夏期研修～ブナ林ツアー～



黒松内と言えば「ブナ林」。地域施設や地域人材の活用、地域資源を活用した授業作りについて考えて行くためには、まず私たち教師側が知らなくては！ということで、今年度初の試みとして、分校近くにあるブナセンターの職員さんの協力のもと全職員による夏期研修が行われました。

当日は、森を散策するには絶好の天気。帽子に長靴、ルーペや網などを携え、まるで子ども時代に返ったような気持ちで森の中を散策しました。森の中でブナの木を探したり、草笛をしたり、食べられる木の実を教えてもらい味見したり、クワガタやサンショウウオを見つけたり、黒松内の自然を五感を使ってフルに体験しました。

とは言え、楽しむだけではなく私たちが考えるのは「授業作り」。散策前には、リスクマネジメント！スズメバチやマダニなどの虫、ウルシなど、散策する上で気をつけなければならないことも確認しました。また、散策しながら、森の中で教材として使えるような素材や活用方法、豆知識もたくさん教えていただきました。



さらに後日、研修をもとにブナに関する授業作り検討を行いました。ブナ林での活動を通して「どんな力を身につけさせるのか」「子どもたちの目指す姿は？」などの視点も大切にしながら、各学部ごとに、どんな授業ができそうか意見を出し合いました。探索、調べ学習、図工や美術への展開、音楽、素材を活かした製品作りなど様々なアイデアが出されました。また、地域人材活用の視点でも、授業をする際にブナセンターの職員さんとのように関わっていけたら良いのかも検討しました。ブナセンターを連携しながら、2 学期以降各学部で授業を展開する予定です。各学部の実践が楽しみです。



夏休み教材展 2024

先生方の専門性の向上、若手の先生への研修を目的に教材展を行いました。先生方のこれまでの経験で作成・使用してきた教材物含め、たくさんの手作り教材が並びました。目の前の児童生徒にすぐに使用できるものとは限りませんが、アイデアや発想はとても参考になったのではないのでしょうか。初任・新任の先生方の感想を一部お伝えします。



○運賃箱の教材を参考に、自動精算機などの練習教材に活かしたい。(野村 T)

○朝の会等のイラスト付きの進行表は、文字の読めない児童にもわかりやすいので、参考になった。(篠崎 T)

○ステンシルの型の教材を、平仮名や漢字の書き順を確かめる教材作りに活かしたい。(瀧上 T)

ICT ミニ研修

荻野教諭による ICT ミニ研修が行われました。

第1回: keynote の基礎研修

第2回: capcut を使用した動画編集の基本操作

第3回: canva の操作方法

荻野教諭が普段どのような場面で使用しているのか、具体的な事例を

聞いたあと、実際に iPad を操作しながら使い方を研修しました。

お互いに分からないところを教え合ったり、それぞれが作成したものを

見合ったりしながらの実践的な内容でした。まずは先生方が使ってみる、操作してみることが大切な一歩なのかなと思います。2学期以降の授業に活用できたらいいですね。



荻野教諭と

熱心に iPad を操作する先生方



学校訪問指導にて



学校訪問において檜山主任指導主事より「知的障害のある児童生徒の自立活動」について講話がありました。自立活動の主語は「児童生徒」であること、指導にあたっての考え方として、以前の「児童生徒の遅れている側面を補う指導」から、「発達の進んでいる面をさらに伸ばす指導」を行うという考え方を大切にするよう改めて確認がなされました。

知的障害の児童生徒にとっての「障害による学習上・生活上の困難さ」は多岐にわたっており、私たちはこれまでもあらゆる指導を行っているが、より良くしていくためには、時間における自立活動の指導と教科等における自立活動の指導のそれぞれの狙いや目的を明確にして指導を行っておくと良いとの助言を受けました。場合によっては、「個別の学習計画」のようなものがあれば、児童生徒も活動を振り返りながら見通しをもって学習に取り組むのではないかとご助言がありました。

お知らせ

研究授業予定



9月: 高等部
10月: 中学部
11月: 小学部



使用。

使い方は別として、
おしゃれにできました？